

第19回京都学生祭典

報 告 パ ン フ レ ッ ト



私たちの「夢」は、京都の新たな伝統
「京都四大祭り」を目指して

第19回京都学生祭典テーマ

ふれてみいひん？京文化

これまで受け継がれてきた文化を守り繋げ、時には時代と共に文化を変えていく。

そこから新たな文化が生まれ、広がっていく。

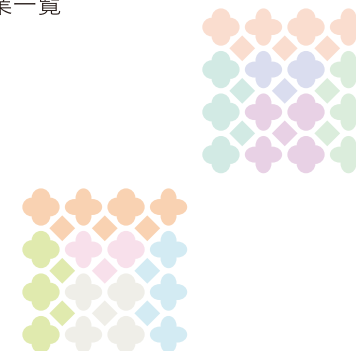
古くから伝わる伝統文化から現代の学生が築く文化まで、

京都に宿るありとあらゆる“京”文化を最大限に引き出した本祭を目指します！



目次

- P02 ご挨拶
- P04 京都学生祭典とは
- P06 年間活動紹介
- P10 プレイベント
- P12 本祭
 - ー開催概要・実績
 - ー本祭企画紹介
 - ー体験型企画紹介
 - ーホームページ企画紹介
- P24 コロナ禍での取り組み
- P26 広報活動
- P27 メディア掲載実績・広報制作物一覧
- P28 オール京都での取り組み
- P29 運営体制・大学コンソーシアム京都加盟大学一覧
- P30 実行委員名簿・所属大学
- P31 実行委員インタビュー
- P32 協賛企業一覧



ご挨拶



第19回京都学生祭典 組織委員会
委員長

黒坂 光

(公益財団法人 大学コンソーシアム京都 理事長)

第19回京都学生祭典は「ふれてみいん？ 京文化」をテーマに掲げ、1年間をかけて創り上げてきました。全面オンラインとなった昨年とは異なり、今年は史上初めての対面とオンラインのハイブリット開催となりました。YouTube Live配信では対面で参加できない方にもご視聴いただきました。また現地では、多くの方に体験型企画に参加いただくことができ、大盛況のうちに終えることができました。厳しい現実に向き合いながら準備に励み、感動を創出された実行委員をはじめとする学生の皆さんに敬意を表するとともに、ご視聴・ご来場いただきました皆様および関係各位に厚く御礼申し上げます。

京都学生祭典は「大学のまち京都・学生のまち京都」のさらなる発展に貢献し、京都に集う学生一人ひとりの成長に繋がる場となるよう、さらなる飛躍をめざしてまいります。

今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



実行委員長

越野 泰介

昨年完全オンラインで開催した京都学生祭典本祭。第19回京都学生祭典本祭を考える上でコロナの問題は避けては通れませんでした。コロナとどう付き合っていくのか、皆さんが安心安全に楽しめるためにはどうすればいいのか。日本全国のイベントも対応が分かれる中、何が正解か何が間違っているのかわからない日々でした。それでも、普段からご支援いただいている関係者の皆さまに助言をいただきながら、ハイブリット開催という昨年よりも進化した京都学生祭典本祭を作り上げることができました。本祭開催にあたりご支援ご協力くださいました、行政、経済界、大学、地域の皆さまに心より感謝申し上げます。



副実行委員長

谷本 若菜

コロナ禍で先行きが見えず、仲間と対面で会うことも難しいなかで準備を行う厳しい一年でした。「コロナの影響でできないことよりも、今だからできること」を探し、形にすることは簡単ではありませんでしたが、産官学そして地域の方々に支えられ無事本祭を開催することができました。誠にありがとうございます。史上初のハイブリット開催が私たちの考える「今だからできること」でした。学生の希望や元気やパワーを感じ取っていただければ幸いです。第20回の京都学生祭典にもご期待ください。



第19回京都学生祭典 企画検討委員会
委員長

木村 光博

第19回京都学生祭典は、その準備段階から本番に至るまで、全ての期間がコロナの猛威にさらされる厳しい年度となりました。

会議はすべてリモートとなり、踊り手やミュージシャンは集合練習が出来ない等、学生諸君にとってまさに苦難の一年間でした。

しかしながら、多くの人が集い、出会い、沢山の絆を生み出してきたこの学生祭典の歩みを途絶えさせない熱意のもと、出来ないことを嘆くのではなく、出来ることを結集し、バーチャルとリアルハイブリットでの開催となりました。屋台も御興も繰り出すことはできませんでしたが、産官学一体となったオール京都のお力添えを頂き無事開催することができました。厚く御礼申し上げます。

来年は第20回を迎えます。リアルでの開催を全く体験できなかった学生諸君による挑戦の時となります。

どうぞ温かいご支援とご指導を賜ることを切にお願い申し上げます。誠に有難うございました。



副実行委員長

田中 惟心

日ごろから京都学生祭典を支援してくださっている皆様、気にかけてくださる皆様、1年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

「結果よければすべてよし」という言葉があるように、第19回京都学生祭典が晴天の中何事もなく終われたというのが何よりうれしかったですし、ほっとしました。3年間様々な仕事をこなし、大変なことやりがいを感じたこと辛かったこと、たくさんありました。それでもここまで続けることができたのは、支えてくれる周りの存在や陰ながら応援してくださっていた大人の方々の存在に私は常に励まされ、頑張ることができたからです。楽しい青春を送らせてくれた祭典がこれから発展していくことを願っています。



副実行委員長

速田 朱里

京都学生祭典は19回目を迎え、これまでの時間ですべての繋がりは、かけがえのないものであると、私自身強く感じた1年でした。新型コロナウイルスで先の見えない中でも、活動場所を求める学生が集まり、この1年間活動してきました。この1年間でできた繋がりがまた、京都学生祭典を支え、次につながる一因になると感じます。

そして、大きな京都学生祭典というお祭りが開催できたのも様々なご協力があるからこそです。京都学生祭典を通してできた繋がりが第19回京都学生祭典を支えてくださいました。多大なるご協力、ご支援をしてくださった皆様に厚くお礼を申し上げます。



企画運営部長 堤 梨花

本年度は初のハイブリット開催という形で本祭を実施し、オンラインとオフラインの両方の良さを引き出すことができる企画を立案いたしました。多くの方に楽しんでいただき、感動を与えることができた本祭になったと感じております。これからも常によりよい形を模索し、たくさんの方々の笑顔を作ることを目指します。

1年間ご支援ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。今後とも京都学生祭典をよろしくお祈りいたします。



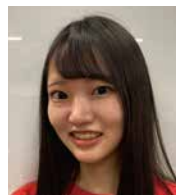
広報部長 大森 友梨子

広報部は、実行委員が作り出すものを、より多くの人に知ってもらうべく活動してきました。ハイブリット開催という、初めての取り組みを広報することはとても難しいものでした。実行委員同士でも、対面で会えない状況下での会議はとても苦しいものでした。しかし、多くの方のご尽力を得て、本祭を無事迎えることが出来ました。京都学生祭典は、多くの人との関係性によって成り立っています。そのことに気付かされる一年間となりました。これからも、京都学生祭典をより多くの人に知っていただくために活動いたしますので、今後ともよろしくお祈りいたします。



年間交流部長 酒井 悠里

年間交流部は1年を通じて地域交流や国際交流を行ったり、京都学生祭典のオリジナルみこしである「京炎みこし」を普及する活動を行なっている部署です。今年も新型コロナウイルスの影響を受け、例年通りの交流は出来ませんでした。新たに子ども食堂へ学生ボランティアとして参加させていただいたり、オンライン会議ツールを活用した留学生交流会を複数回行い、留学生との交流を深めることが出来ました。皆さまの多大なるご支援、ご協力のもとで、形を変えながらも交流を行うことが出来ました。京都学生祭典に関わってくださった全ての方々に心より感謝申し上げます。今後とも京都学生祭典を何卒よろしくお祈り申し上げます。



総務部長 松田 優香

総務部は実行委員会を代表し、多くの行政・大学の構成員の方と1年間を通し、本当に沢山のやり取りをさせていただきました。

新実行委員の募集、説明会や備品関連、AED講習や輪転研修など実行委員同士でのコミュニケーションも多く、忙しくもとても充実した楽しい1年間でした。仲が良く、雰囲気がとても良い組織であることを常に意識し、総務部は活動してきました。

改めてご多忙の中ご支援、ご協力いただいた多くの皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。今後とも、京都学生祭典実行委員会を何卒よろしくお祈り致します。



警備部長 高木 花帆

幼い頃から京都学生祭典に憧れを持ち、会議見学の中で惹かれたのが警備部でした。今年度は警備部長として、警備業者様と協力しながら京都学生祭典本祭を無事成功裏に終えることができました。普段の活動の中では部員数が少なく、オンライン形式と対面形式の活動が入り混じる中、次々と現れる問題点に頭を抱え悩む日も多くありました。警備部は学生祭典を支える唯一無二の部署です。これからも、京都学生祭典が私の様に誰かの夢や憧れの場として発展することを願っています。活動に際し、ご支援ご協力くださった多くの方々に心より感謝申し上げます。



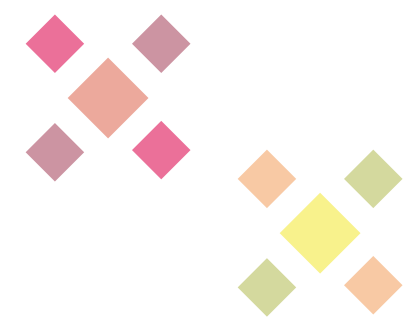
営業部長 篠原 日菜子

営業部は、この1年間企業様やご支援下さっている方々と、京都学生祭典を繋ぐ懸け橋として活動してまいりました。コロナ禍にも関わらず、今年度も多くの企業様、地域の方々からご支援をいただき、無事本祭を開催することができました。至らぬ点が多々ございましたが、皆様からの沢山の温かいお言葉に力をもらい、何度も励まされ、最後までやり遂げることができたと感じております。京都学生祭典に携わってくださった全ての方に、心より感謝申し上げます。今後とも温かいご支援のほど、何卒よろしくお祈りいたします。



おどり普及部長 森川 駿

おどり普及部では今年一年間、各校での出前教室や京北地域との連携した地域PR企画・わかさ生活様とコラボし、アニメの振り制作を行う等のでふれ!やおどりをういた企画を地域の皆様および企業の皆様のご協力の下、実施してまいりました。京炎 そでふれ!の普及のみならず、様々な面において得ることが多く、自分自身の成長にも繋がりました。ホストチームのおどり手と京都学生祭典を繋ぐ架け橋のような立ち位置での活動が多く、京都学生祭典で踊るおどり手を見て一年間やって良かったと思えました。皆様のご協力があればこそここまでできなかったと実感しております。今後とも京炎 そでふれ!および京都学生祭典へのご支援を宜しくお願いいたします。



京都学生祭典とは

京都学生祭典とは、2003年から毎年10月に平安神宮前・岡崎プロムナード一帯にて繰り広げられ、来場者数が10万人を超える一大イベントです。人口の1割を学生が占める学生のまち・京都で学ぶ大学生だからできる、学生プロデュースのお祭りです。企画の立案や運営、当日の会場警備から協賛獲得のための営業活動やチラシ作成などの広報活動まで、お祭り開催にかかるすべてのことを学生が主体となって行っています。企業・大学・行政そして地域との連携を深めながら、京都中から愛され続けるお祭りを目指しています。京都学生祭典当日はおどりや音楽をはじめ、食やスポーツ、アートなど毎年様々な催しで10万人以上の観客を魅了します。新型コロナウイルス感染症の影響で昨年、今年とオンライン配信も始め、京都学生祭典はさらなる進化を求めて、日々発展していくことを目指します。



活動理念

1. 京都を活気づけ、感動・笑顔を生み出す

私たちの活動を通じて、世代に関係なく京都で過ごす人々が出会い交わるきっかけを作りたい。そしてその場にいる人全員が心温まる気持ちを抱き、同じときを過ごしてほしい。多くの方々と関わり支えられ活動している私たちだからこそ、元気・喜びを与えられるような存在となることを目指します。



2. 京都の一員として、地域社会との繋がりを尊重する

私たちの活動は地域社会(企業・大学・行政・地域)の理解と協力があって初めて行うことができます。そのような信頼関係は、一朝一夕で築くことはできません。だからこそ、地域社会との日々の交流を大切にし、その積み重ねによって、京都学生祭典が京都の地で末永く続くお祭りとして定着できるようになると考えています。



3. 京都で学び、地域社会と共に魅力を広く発信する

京都学生祭典を開催するには、主体となって活動する学生が地域社会と数々の交渉を重ねていく必要があります。幾度にも及ぶ困難を乗り越え、様々な経験や出会いの中で学びや自己実現の機会に恵まれます。その中で学生が生み出す魅力、京都の魅力を地域社会と共に多くの人に届けていきます。



○これまでの歩み

2003 第1回

「めっちゃ音楽!めっちゃ響都」
京都学生祭典の誕生。当時実行委員だった倉木麻衣さんが平安神宮でライブを実施。



2019 第17回

「京都から挑み、ともに新時代へ。」
年齢・性別・運動神経にかかわらず誰もが楽しめる「ゆるスポーツ」など、より多様な方々に楽しんでいただきました。



2005 第3回

「イベントから祭へ」
創作おどり「京炎 そでふれ!」の誕生。平安神宮内で約4,000人で総おどりを実施。



2011 第9回

「深・京都学生祭典」
東日本大震災への復興・支援を目的としたチャリティー企画「『京縁』〜届け!京都の想い〜」を開催。



2020 第18回

「夢、縁(ゆかり)。」
新型コロナウイルス感染症の影響により、京都学生祭典史上初のオンラインで開催。



京炎 そでふれ!

京炎 そでふれ!とは、第3回京都学生祭典より誕生した京都学生祭典オリジナルの創作おどりです。見るだけではなく、参加して楽しめるようなお祭りを目指そうという想いから京炎 そでふれ!が生まれました。京都らしい曲・振り・衣装をもとに、四竹を手に持って踊るおどりで、京都市内の大学生を中心に子どもから大人まで、誰もが好きなジャンルで踊ることができます。



「京炎」には「学生の燃えるような想いを京都から全国に発信したい」という願いが込められており、「共演」「競演」という意味もあります。「そでふれ」は、「袖触れ合うも多生の縁」「friend」、そして涙を象徴する「そで」をおどりで「振り払う」ことが由来であり、おどりを通して人々の交流を願ったネーミングとなっています。



現在は、大学ごとに「京炎 そでふれ!ホストチーム」と呼ばれる11のチームがあり、約1,000人の大学生が所属するまで大きくなりました。京都を盛り上げ、新しい学生文化を全国・世界へ発信していこうと日々活動しています!



○京炎 そでふれ!の3本柱

スペシャルバージョン

曲・振り・衣装全てに京都らしさがふんだんに盛り込まれた京炎 そでふれ!を象徴するおどりで、衣装は着物の一種である留袖をリメイクして使用しており、一着一着が手作りでそれぞれが異なる柄になっています。



簡単バージョン

京炎 そでふれ!スペシャルバージョンを若者男女問わず誰でも踊れるように、簡単にしたおどりで、京都学生祭典の最後を飾るおどりであり、来場者も一緒に踊ることでその場にいる人全員がおどりを通じてひとつになれます。



オリジナル

京炎 そでふれ!ホストチームがその年ごとに作るオリジナルのおどりで、おどり手1,000人、11チームがそれぞれ自分の考える「京都らしさ」を追求することで、さらに京炎 そでふれ!が奥深いものとなっていきます。



○京炎みこし

京炎みこしは、古くから日本の伝統として地域に受け継がれているみこしに、学生のまち・京都が生み出した京都学生祭典という新たな力を加え、京都の活性化を目指したいという想いから創られました。また、京都で学ぶ学生と市民の安寧への願いを京炎みこしにのせ、担ぐことによりその想いを伝え、受け継いでいきます。

※今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により活動中止中。

年間活動紹介

京都学生祭典では、10月に開催する本祭へ向けた準備だけでなく、年間を通して様々な活動を行っています。京都学生祭典より生まれた創作おどり「京炎 そでふれ！」の普及活動や、お世話になっている地域の方々との交流活動、更には京都学生祭典をより多くの方に知ってもらうための広報活動、独自の環境への取り組み「KYO-SENSE活動」などその内容は多岐にわたります。

○子ども食堂ボランティア

京都学生祭典は、京都中の方々から愛され、地域に根付くお祭りにするべく、年間を通して地域の方々との交流を深めています。

今年は2003年から毎年10月に京都学生祭典を開催させて頂いている岡崎地区の子ども食堂を対象に、学生ボランティアとしての参加や食品寄付を行って地域交流を行ってきました。9月11日には子育て支援団体ママキラ☆プロジェクト様主催の子ども食堂「カレーパーティー」に学生ボランティアとして参加させて頂き、また、9月24日にはこころばかりの会様主催の「くる谷子ども食堂」に学生ボランティアとしての参加と、実行委員会内で集めた食品を寄付させて頂きました。どちらも感染症対策を徹底した上でテイクアウトにて行い、食品をパックに詰めたり参加者の方に配る作業をお手伝いさせて頂き、地域の方々との交流を深めることができました。今後も地域との繋がりを大切に、地域への貢献ができるような交流を続けて参ります。



○出前教室

京都学生祭典オリジナルの創作おどり「京炎 そでふれ！」の振りを、実際に小・中学校などの教育機関に出向き、振付指導をさせて頂いております。出前教室を通して振りを覚えた子どもたちが、運動会などの様々な学校行事で京炎 そでふれ！のおどりを披露してくださいました。また、出前教室を実施していない学校の子どもたちにも踊っていただくなど、京都府外の学校からも京炎 そでふれ！についてお問い合わせをいただき広まりを実感しました。



○紫竹ecoフェスタ

地域の方々に京都学生祭典をより知って頂くために、例年、地域の夏祭りに参加させて頂いております。今年は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、各地域の夏祭りは全て中止となってしまいましたが、3月13日に紫竹小学校にて行われた紫竹ecoフェスタに参加させて頂き、ブース運営を行いました。イベントの趣旨がエコに関連した企画だったため、ボトルフリップ*企画立案と運営を行い地域の方々との交流を深めました。感染症対策が徹底された上で対面にて行われ、新型コロナウイルスの影響により思い通りの交流が出来ない中、こういった地域のイベントに参加させて頂き、改めて地域の方々の温かみを感じることができました。

*ボトルフリップとは…ペットボトルを使った遊びの一つ。一定量の液体が入ったペットボトルを空中に投げて回転させ、キャップか底に直立させるもの。



年間活動紹介

○広報活動

京都学生祭典をより多くの方に、知ってもらうため様々な場所での、配布・配架活動を行ってきました。四条河原町や、四条烏丸などの街頭では、コロナ対策をしながら広報物を直接配布し、京都府内の大学をはじめ、幼稚園・小学校・中学校・高校へはチラシを配布いたしました。

手渡ししやすいB7冊子や、本祭の詳細を書いたパンフレットなど、様々な広報物を作成することで幅広い方々の手に届けることができました。また、昨年に引き続きWEB広告を行い、紙媒体以外での広報も行いました。

各種SNSでの情報発信を行い、新規フォロワーや「いいね」数を増やすことに努め、多くの方に視聴・来場いただくことにつながりました。



○研修会

京都学生祭典実行委員会では、毎年様々な研修を実施しています。実行委員会の活動のために必要となる知識を学んだり、実行委員同士で議論する場を作るなど、多岐にわたる研修を行っています。それぞれの代で行う研修は異なり、今年度はチーム力に関する研修を中心に行いました。さらに、「祭りがつながった」という研修では、京都学生祭典以外で学生が運営しているお祭りの学生実行委員も加えた合同研修を行いました。全国から集まった学生と交流し、祭りを運営する上での悩みを相談したり、運営方法を教え合ったりすることで、普段とは違う価値観に触れることができる研修となりました。今年度も昨年に引き続き対面での研修はほとんど行えず、オンライン会議のツールを利用した研修活動を行いました。



○国際交流活動

今年は昨年度に引き続き、感染対策上オンライン会議ツールを用いて、オンライン留学生交流会を複数回行い、留学生との交流を深めました。交流会では、留学生とゲームをして楽しんだり、お互いの国の魅力について話し合いました。オンライン会議ツールを用いることで、来日できなかった留学生とも交流を深めることができました。



○環境活動

「今日から始められる環境への取り組み」という意味がある、京都学生祭典発の「KYO-SENSE」をテーマに、年間を通して京都の環境活動を行います。今年は「鴨川を美しくする会」のみなさまと一緒に鴨川の河川敷のゴミ拾いを行ったり、「海と日本プロジェクトin京都」にも参加し、本祭で使わせていただく岡崎地域の清掃活動をするなど、積極的に清掃活動を行っております。また、広報物として紙製のルーズリーフケースを作成するなど、京都学生祭典は環境にやさしい様々な取り組みを行っています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

京都学生祭典はSDGsを応援します。



プレイベント

○YouTube活動

YouTube上では今、学生間でもトレンドのVlogを用いた「バスで京都をめぐるVlog」であったり、「サプライズで大学生が花束を渡す」企画などを行ってきました。どれも様々な世代の興味を引けるような内容を考え、思わず再生したくなるようなサムネイルや動画構成と編集方法で「京都学生祭典」というブランドの認知に努めました。



○TikTok活動

特に若者への認知度が低いと考えた私たちは、気軽に見ることができて一気に話題になるTikTokで京炎 そでふれ！ホストチームの紹介動画でメインコンテンツへの認知を深めたり「京都学生祭典」がどのような活動で、どのような部署があって活動しているのかを楽しく知ってもらえるよう短くポップな動画の作成に尽力しました。



○新入生説明会

京都学生祭典は、学生が創り、学生が魅せる。学生のみち・京都だからこそできるお祭りです。私たちは魅せるだけでなく、ともにお祭りの運営に関わってくれる仲間も求めています。

緊急事態宣言中はZoomで行い、ハイブリッド開催に伴い、オンラインとオフラインを融合させ、京都学生祭典を運営する部署の説明会を行いました。



○京北地域連携企画2021

少子高齢化が進む京北地域の活性化に向けて、京都の大学生と地域住民が互いにおどりを教えあうなどの交流を行う「京北地域連携企画」を6月中旬より実施してきました。

京北地域の観光名所にて京都学生祭典の創作おどり「京炎 そでふれ！」を、住民と共に披露し、その撮影を行いました。また、今後作成する動画上では、京北地域の観光名所や特産物の紹介も予定しています。学生目線で地域の魅力を発信し、多くの若者に京都を広く再発見してもらい、これからの京都を築いていくきっかけの創出を目指します。



○そでふれインタビュー

京都学生祭典オリジナル創作おどり「京炎 そでふれ！」のホストチームの代表の方にインタビューしました。各チームの雰囲気や、過去の歴史、演舞についての想いなどを語っていただきました。京都学生祭典を引っ張っていくホストチームのさらなる進化が楽しみとなったインタビューでした。



○OB/OGインタビュー

京都学生祭典は、2022年で20回を迎えます。記念年を迎えるにあたって、京都学生祭典の歴史を振り返るインタビュー記事を公開しました。インタビューでは、当時の企画や京都学生祭典を引退されてからのことなどをお聞きしました。京都学生祭典の19年分の歴史が、詰まったものとなりました。



本 祭

○開催概要・実績

新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、第19回京都学生祭典本祭はオンラインとオフラインを融合させた、初のハイブリット形式にて実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、これまでの生活様式が一気に変わりました。今年のテーマである「ふれてみいん？京文化」を実現するために、伝統文化から現代の学生が築く文化まで、京都に宿るありとあらゆる“京”文化を最大限に引き出し、この「withコロナ」に対応した新たなお祭りを創ることが出来ました。

ハイブリット開催だからこそできるパフォーマンスを日本全国の人々に見て、参加して楽しんでいただけるよう、学生のようなパフォーマンスが楽しめる「視聴型企画」、実際に来場して楽しむ「体験型企画」、HPで楽しむ「ホームページ企画」の3種類の企画を実施しました。

〈視聴型企画〉

本祭当日にYouTube Liveにて「京炎 そでふれ!」の演舞や「*Kyoto Student Music Award*」の演奏などのライブ映像を放映しました。また、協賛企業のCM、日ごろからお世話になっている方々から頂戴したメッセージなども放映させていただきました。

〈体験型企画〉

実際に岡崎グラウンドに来場していただき、謎解きをしながら、京都の文化に関わる西陣織しおり・くみひもプレスレット作り、匂い袋体験など様々な体験ができる企画や、紙に描いた絵が映像になりスクリーンで泳ぐ「紙アクアリウム」などを実施しました。

〈ホームページ企画〉

HPで楽しんでいただける「オンライン謎解き」は京都に関連する謎解きを特設HPに掲載しました。



実 績 数 値

本祭当日		合 計	
YouTube Live視聴回数	12,926 回	YouTube 視聴回数	30,574 回
HP 閲覧数	30,778 view	HP 閲覧数	87,841 view
体験型企画	265 人		

※10/1~10/31をお祭り開催期間としてカウント

○実施企画一覧



視聴型

- ・Opening
- ・吹奏楽団による演奏
- ・開演!京炎 そでふれ!
- ・京宴-KYOEN-
- ・手形アート
- ・みちのくYOSAKOI交流企画
- ・*Kyoto Student Music Award* ・総おどり
- ・京炎 そでふれ! コンテスト
- ・**全国おどりパフォーマンス**
- ・宵Fes!
- ・表彰式/優勝団体再演
- ・京炎 そでふれ! スペシャルバージョン

体験型

- ・ぶらり謎解き京巡り
- ・はなとひかりと京都
- ・みんなで作る都アート
- ・国際ワードクラウド
- ・ワードドロ잉アート塗り絵

ホームページ企画

- ・オンラインなぞ解き

本祭企画紹介

○Opening

京都学生祭典のOpeningを飾っていただいたのは、アニメーション・映像制作会社「スタジオクロノ」様に作成していただいたアニメ映像です。この映像では、京都学生祭典を運営する実行委員の姿やパフォーマンスをする団体をアニメーション映像にいただき、京都学生祭典のテーマソングであるChicago Poodleの「ありふれた今日の特別な場面」を使用することで、京都学生祭典の要素がたくさん詰め込まれている映像となりました。京都学生祭典を知らない人でも、本祭がどのようなものなのか、楽しく見ながら知ることができる映像となっています。第19回京都学生祭典本祭のスタートを告げる素晴らしいOpeningとなりました。



○吹奏楽団による演奏

第19回京都学生祭典本祭開幕の曲は、立命館大学応援団吹奏楽部による演奏です。京都学生祭典本祭ではステージ上で披露していただく予定でしたが、コロナ禍ということもあり、事前撮影の映像での披露となってしまいました。しかし、映像でも伝わってくるほど美しく壮大な演奏で、Opening企画にふさわしい演奏となりました。新型コロナウイルスの影響で、部員が集まることも難しい中、この企画のためにたくさん練習をしていただきました。立命館大学での撮影で、生演奏を聴いたときには、部員の方々の一体感と迫りに圧倒されました。そして、この映像は、その一体感と迫力を感じることができるものとなっています。



○開演！京炎 そでふれ！

京炎 そでふれ！ホストチームのおどり手全員による京炎 そでふれ！スペシャルバージョンを披露しました。開演を祝し、全員で踊ることで京都学生祭典を盛り上げ、見てくださる人々に感動やパワーを与え、この演舞を通して京都学生祭典に関わる全ての人を1つに繋いでくれました。今年は広大な岡崎グラウンドからYouTube Liveにて放映しました。また、オンラインならではの高いクオリティの映像をお届けするため、ドローンを使用した撮影を行いました。上空からの映像と地上の映像を切り替えることで、おどり手全員による演舞はとて迫力のあるものとなり、Opening企画にふさわしい企画となりました。



○京宴-KYOEN-

京都学生祭典実行委員会と立命館大学ストリートダンスサークル舞styleがコラボしたパフォーマンス企画です。

舞styleの皆様には、こだわりを持った演出をしていただきました。アクロバティックやしなやかさを基調とした振り付け、一条乱れぬダンスからは、まさに宴のような賑やかさが感じられ、コロナ禍による自粛ムードでぼんやりとしてしまった人の心に刺激を与えてくれる圧巻のパフォーマンスでした。また、「視聴者の方に楽しんでいただけるだけでなく、京都の魅力を知ってもらいたい。」という想いから、京風の音楽や衣装を取り入れました。これにより、今年度のテーマである「ふれてみいひん？京文化」にちなんだ京都らしさ満載のステージとなりました。



本祭企画紹介

○手形アート

今年度は、例年行われている来賓紹介、テープカットに代わり、来賓の皆様にご協力いただき、リレー形式でのご挨拶動画を用いた手形アート製作をしました。

ご挨拶と手形を押すジェスチャーを行う動画を撮影、編集することで1本の動画にし、1人1人の手形によって、京都学生祭典のシンボルである平安神宮の大鳥居を完成させました。手形には、大鳥居を表す朱色だけでなく、オレンジ色や黄色、緑などの色を用いる工夫を施し、京都学生祭典オリジナルの大鳥居に仕上げました。また、コロナ禍の影響で、人のつながりに制限がある今だからこそ、皆様の手形が集まって出来上がった手形アートは、他にないあたたかさに溢れた作品となりました。



○みちのくYOSAKOI交流企画

今年度は京都学生祭典実行委員会と交流がある宮城県のみちのくYOSAKOIまつり学生実行委員会と連携した企画を行いました。みちのくYOSAKOIまつり学生実行委員会の方々に京炎 そでふれ！スペシャルバージョンを踊っていただきました。宮城県の観光地やみちのくYOSAKOIまつりのメイン会場をバックに撮影を行いました。

新型コロナウイルスの影響で旅行などが自由に行けない中、仙台やみちのくYOSAKOIまつりの雰囲気を感じることができる動画となりました。



○Kyoto Student Music Award

*Kyoto Student Music Award*は学生を対象とした音楽イベントで、バンド・アカペラ等、音楽に関わるものすべてを対象としたコンテストです。昨年オンラインでご出演していただいた団体の方々演奏を実際に聞くこともできました。

今年の京都学生祭典本祭では、弾き語りからピックバンドまで様々なパフォーマンスをしていただきました。様々なジャンルのパフォーマンス見ることが出来るのも、*Kyoto Student Music Award*の魅力の1つです。出演者の方々の熱い演奏により、視聴者の方々はもちろんですが、その場にいた実行委員全員も音楽を楽しむことが出来ました。

YouTube Liveのアンケート機能を利用し、視聴者に自分の感想にあった回答の選択をしていただきました。多かった回答の集計結果の花火が画面上にあがることで、視聴者の気持ちがリアルタイムで反映され、オンラインでも見ていただいている方に楽しんでいただけて、多くの視聴者の方々に素敵なパフォーマンスを届けることが出来ました。



○京炎 そでふれ！コンテスト

京炎 そでふれ！コンテストとは、京都らしさをテーマにした演舞の中に四竹を取り入れたおどり「京炎 そでふれ！」を対象にした演舞のコンテストです。

毎年この京都学生祭典本祭を1年の集大成の場として、それぞれのホストチームが魅力的な演舞を披露しており、京都学生祭典本祭では演舞をYouTube Liveにて放映しました。新型コロナウイルスの影響で十分練習時間が確保できない中でも学生のパワーあふれる素晴らしい演舞を披露してくださいました。

オリジナル演舞は、それぞれのチームのおどり手が考える、京都らしさと、それぞれのホストチームのカラーを演舞に込めることで、唯一無二のものになりました。京都学生祭典本祭のステージを華やかに彩り、メインイベントの1つの企画となりました。



本祭企画紹介

○全国おどりパフォーマンス

全国おどりパフォーマンスは京炎 そでふれ！以外の全ジャンルのおどりを対象としたパフォーマンスをYouTube Liveにて放映しました。全国に参加を呼びかけ、全33団体のダンスチームにご参加いただきました。

今年は審査を行わず、10月10日に京都学生祭典公式YouTubeにてパフォーマンス動画を公開しました。第19回京都学生祭典本祭では団体それぞれのパフォーマンス動画の中でも特に魅力溢れる部分をダイジェスト動画として放映したため、団体それぞれの個性が詰まった動画に仕上がりました。

オンライン開催したことで全国から様々な団体に参加してもらえたことに加えて、より多くの視聴者の方々に素敵なパフォーマンスを楽しんでいただけたこと、ご参加いただいた団体の魅力を発信できたことはもちろん、京都学生祭典を全国の方々に知っていただく良い機会になりました。

※フルバージョンは京都学生祭典公式YouTubeにて公開中!



○宵Fes !

同志社大学軽音楽部「The Second Home Jazz Orchestra」と立命館大学「舞style」による、ビッグバンドとダンスのスペシャルステージを披露しました。

今年のテーマにちなんで、京都にある随心院での映像撮影、和の衣装、京都発足のインストバンドJABBERLOOPの「シロクマ」に合わせるなど、様々な点で京の要素を取り入れました。コロナ禍での出演団体との練習、事前の打ち合わせなど苦労した点は多くありましたが、自分たちの力で乗り越え華やかで感動的なステージを創りあげることが出来ました。



○表彰式/優勝団体再演

京炎 そでふれ！コンテストと *Kyoto Student Music Award* の優勝発表および再演をYouTube Liveにて放映しました。優勝団体にはそれぞれ優勝賞金20万円が贈られました。

Kyoto Student Music Award 優勝の同志社大学軽音楽部「The Third Herd Orchestra」は、こだわり抜かれたお洒落な音や演奏が審査員と視聴者の方を魅了しました。

京炎 そでふれ！コンテスト優勝の「京炎 そでふれ！彩京前線」は、初のお披露目であった「彩暁-あかつき-」を演舞し、コロナ禍の苦労を全く感じさせない圧巻のステージとなりました。



○京炎 そでふれ！スペシャルバージョン

京炎 そでふれ！11のホストチームのおどり手の中からオーディションで選ばれた精鋭達による京炎 そでふれ！スペシャルバージョンを披露しました。

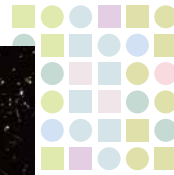
曲・振り・衣装のすべてに京都らしさがふんだんに盛り込まれた「京炎 そでふれ！」を視聴者の方にはステージ上で演舞するおどり手の様子をYouTube Liveで楽しんでいただく形になりました。ハイブリット開催だからこそ、視聴者の方は、一人ひとりの動きや表情、衣装に着目することができました。おどり手たちによる平安神宮をバックにした迫力ある演舞で第19回京都学生祭典本祭のGrand Finaleを見事に飾ってくれました。



本祭企画紹介

○総おどり

来賓の方々、実行委員、京炎 そでふれ！ホストチームのおどり手がメインステージと岡崎グラウンドに分かれて、例年通りの京炎 そでふれ！簡単バージョンをおどる様子をYouTube Liveにて放映しました。2か所の会場の映像を切り替えて配信することや、Zoomを用いて視聴者の皆様にも参加いただくことで、離れた場所においてもたくさんの方がオンラインで繋がっていることを感じる事が出来たため、ハイブリット開催ならではの良さを生かすことができました。同じ時間、同じおどりをたくさんの方々が共有でき、第19回京都学生祭典本祭のGrand Finaleを締めくくるにふさわしい企画となりました。



○京炎 そでふれ！演舞紹介

サブステージでは、京炎 そでふれ！ホストチームがメインステージで行う「京炎 そでふれ！コンテスト」演舞披露前のリハーサルを行いました。その様子はおどり普及部公式YouTubeチャンネルにて配信し、本番前の各チームの緊張感や演舞の雰囲気が伝わって来るものでした。これは本番に向け、おどり手はモチベーションアップに繋がり、視聴者の皆さんは期待度が増すものとなりました。



体験型企画紹介

○ぶらり謎解き京巡り

この企画は、碁盤の目を表した京都の街を巡り、なぞ解きをするスタンプラリー企画です。コロナ禍における感染防止対策として、密を避けるために間隔を開け、混雑を避ける工夫を行いました。

京都の文化である、くみひも、西陣織しおり、源氏香を使用した「体験ブース」、京都の知られざる「豆知識マス」、なぞ解きの鍵を握る「ヒントマス」を巡り、老若男女問わず京都の文化を学んでいただくことが出来ました。

2年ぶりに岡崎グラウンドでの対面企画を復活させることができ、大成功を収めることができました。今後も、子どもから大人まで楽しめる対面でしか味わえない企画を作り続けていきます。

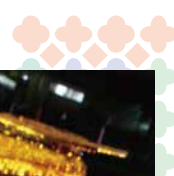


○はなとひかりと京都

岡崎グラウンドと神宮道南の一角に、色を塗ったペットボトルや瓶の中にLEDキャンドルを合計約4000個使用したモザイクアートを制作しました。

同志社大学の新町キャンパスおよびその周辺の地域の活性化を目指して活動しているShinmachi Activate Project (通称SAP)とコラボしました。

第19回京都学生祭典のテーマである「ふれてみいん？京文化」に即して、京都らしいデザインをイメージし、YouTube Liveでの中継も行い、多くの方に楽しんでいただきました。



体験型企画紹介

○みんなでつくる都アート

年間交流部の地域部門では、地域や来場者の方々と、「みんなでつくる」アート作品を企画しました。そのなかで、株式会社リコー様の製品である「紙アプリ」をレンタルし、描いた絵がスクリーン上で泳ぎだす「紙アクアリウム」を実施しました。保育園のお子様方にもご協力をいただき、幅広い年齢の方から、独創的な絵を集めることができ、非常にたのしげな水槽が完成しました。

また、コロナ禍が終わったらやりたいことや、ねがいごと、将来の夢などを寄せ書きするボードも設置し、すてきな想いをたくさん集めることができました。



○国際ワードクラウド

ワードクラウドとは、短い単語をたくさん集め、1つの絵を完成させるというものです。事前に留学生との交流会を数回実施し、その中で留学生に京都の魅力、なぜ日本に来たのかなどいくつかの質問をし、集まった回答を元に英語を用いて金閣寺や紅葉、イチョウの絵を完成させました。当日は「インスタ映えするフォトスポット」として絵が描かれたボードを設置し、京都学生祭典のロゴも載せることで、京都学生祭典の広報に繋がりました。来場者の方には写真撮影をしながら留学生交流会の感想を話し、留学生から見た日本についての再発見をしてもらいました。



○ワードローイングアート塗り絵

ワードローイングアートとは、ひとつの絵を文字のみで描くものです。本企画では事前に英単語を用いてA4サイズの簡単な絵を2種類作成し、食べ物、生き物、日用品、京文化に関するデザインを使用しました。また、子どもでも分かるような簡単な英単語を用い、英語についての理解を深めてもらうとともに他国の文化について知ってもらうことを目的としました。当日は来場者に下書きの絵をなぞって色を塗って頂き、オリジナルの作品を作成してもらいました。その中で来場者と話しながら色塗りをしてもらうことで英語を楽しく学んで頂きました。



ホームページ企画紹介

○オンラインなぞ解き

去年好評だった、第18回京都学生祭典本祭特設HPにて開設した”オンライン謎解き”が答えの解説動画を付け加え、パワーアップしました。

藤原道長と旅をするストーリーに沿って、京都のマニアックな謎を解き進めるので、京都に詳しくなれること間違いなしという内容になりました。

ストーリー、謎、解説動画まですべてが実行委員オリジナルです。かなりの難問も含まれていますが、謎解きに自信のある方、京都を感じたい方にはとても解きがいのある問題となりました。



コロナ禍での取り組み

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言下においても、各実行委員は自身が在籍する大学の課外活動方針を遵守し、積極的にオンラインでの活動を実施しました。また、対面での活動を再開するにあたっては、徹底した感染防止対策を講じてきました。ガイドラインの作成や日頃の活動において、ウイルス学や公衆衛生学の専門家にご意見を頂戴し、実行委員ならびに出演団体の感染防止対策に最大限取り組みました。

○徹底した感染防止対策

オンラインでの活動

昨年より新型コロナウイルス感染症が拡大し、京都学生祭典本祭まで計3回の緊急事態宣言を受けながらも、宣言期間中はオンラインに切り替え、活動を止めることなく準備を進めてきました。オンライン会議などではZoomなどを活用したビデオ会議での実施を推奨し、直接会わずとも活動できる環境作りに取り組みました。

マスクの着用、手指消毒・手洗いの徹底

普段の活動時はもちろん、本祭当日も実行委員のマスク・フェイスシールドの着用、こまめな手洗いと手指消毒、アクリル板の設置、室内の人数制限等、クラスターが発生しないよう徹底的な感染防止対策に取り組みました。

日常的な体調確認と情報の共有

各実行委員による日常的な検温報告と健康チェックに加え、活動の前後も実行委員の体調報告を徹底しました。更に、実行委員が屋内外で対面形式で活動する際には、事前に活動申請書の提出をすることで実行委員同士での活動場所や日時、活動人数を共有いたしました。万が一、活動時に感染が確認された場合でも情報の収集・提供を可能にしました。

3密(密閉・密集・密接)を避ける

室内での活動時においても常時換気を行い、過度に人が密集しないよう人数の制限を設けました。また、可能な場合はオンラインでの参加を呼びかけるなど、密となる環境にならないことを心がけました。

出演団体に対する感染対策の呼びかけ

本祭企画に参加するためにパフォーマンス動画を撮影される団体に、専門家の意見を交えて作成した「撮影ガイドライン」を遵守した上で撮影を行うよう呼びかけました。



○作成したガイドライン

京炎 そでふれ！コンテスト、*Kyoto Student Music Award*、全国おどりパフォーマンスにご出演いただく団体に向けて、パフォーマンス動画を撮影する際のガイドラインを専門家の意見を踏まえて作成しました。なお、このガイドラインは私たち実行委員の活動にも適用し、新型コロナウイルス感染防止に努めました。以下、ガイドラインの一部をご紹介します。

○活動するにあたって

- 責任者と衛生管理者(係)の配置
 - ・演奏撮影の責任者と衛生管理者(係)を配置し、適正に活動がなされるようにしましょう。
 - ・衛生管理者(係)は活動関係者の感染予防の徹底と、施設等の使用した場所の消毒を担いましょう。
 - ・責任者は衛生管理者(係)の作業が適切に実施されているかどうかを管理・監督しましょう。
- 常に人と人との距離は最低2mとる
- 手指消毒、手洗いの徹底(参考:厚生労働省作成動画 <https://youtu.be/Eph4Jmz244A>)
 - ・会場入退出時に手指消毒を行い、こまめに手洗いを行ってください。
- 広い会場の用意
 - ・基本的には屋内での活動になるので、密を避けるために広い会場を用意しましょう。
- スタジオの換気の徹底
 - ・使用したい時間より長くスタジオを借り、前の使用者がいる場合は15分程の換気をしましょう。
- 参加者の情報把握

○活動中の注意点

- 密集するおどりの振りを変更する
 - ・身体的接触 ハイタッチ等は禁止。
- パフォーマンス中に声を出さない
 - ・飛沫感染を防ぐ必要があります。動画撮影とは別で掛け声のみを個々人で録音し、後ほど合成する等してください。
- 道具類の共有は一切しない
 - ・直接的な接触、または物体の表面を介しての間接的な接触により接触感染のリスクがあります。また、意図せぬ道具の取り違いなどもないように、各自持ち物の管理を徹底しましょう。(パフォーマンス撮影に関する感染防止ガイドライン ※一部抜粋)

広報活動

○SNS活動・実績

今年は、ハイブリット開催を、各SNSで広報することに力を入れてきました。オフラインとオンラインの差を分かりやすくするために、写真やイラストを使って、視覚的に分かるような投稿を中心に行いました。また、京都の風景写真などを投稿し、そこからの流入を狙った活動をしました。さらにSNSや公式HP、特設サイトでは、アナリティクスを活用し、広報活動をしてきました。また、SNSのDM機能を用いたアプローチも行い、より多くの人にハイブリット開催の情報を伝えることができました。



〈京都学生祭典公式 Instagram〉



〈京都学生祭典公式 Twitter〉

○WEB広告展開

第19回京都学生祭典では、ハイブリット開催に向け、オンラインでの広報活動を強化してきました。昨年のWEB広告の結果を元に、いかに視聴者・来場者を増やすか考え行動してきました。Instagram・Twitter・YouTubeの三種類の媒体を用い、ターゲットとしてきた京都府内の方々へ情報を届けました。インパクトを残すため、京炎 そでふれ！の音楽を使用し、スピード感のある動画を作成いたしました。



○メディア掲載実績

新聞	7月22日	京都新聞 朝刊	丹波音頭 京都学生祭典で初披露
	8月20日	朝日新聞 Digital	京都らしさちりばめて「そでふれ」でつながる若者たち
	9月15日	京都新聞 朝刊	京都学生祭典、平安神宮で成功祈願 10月10日開催、演舞など無観客で
	10月2日	京都新聞 朝刊	京都学生祭典本祭特集記事
10月29日	京都新聞 朝刊	きょうの京都検定 解答と解説	
WEB	12月20日	Web	京都環境フェスティバル2020 フォトコンテスト「#京写真の祭典」
	4月22日	ネットニュース ヤフー	コロナ感染対策の呼び掛け 京都府新型コロナ感染対策啓発動画
	4月28日	YouTube	飲食時の『きょうとマナー』にご協力！
テレビ	9月30日	HP	キャンパスマガジン サギタリウス 今こそ新しいことにチャレンジを！
	3月28日	KBS京都	府議会cafe 大学生と議員の座談会
	5月25日	KBS京都	京都ライブ！コロナ渦を一緒に乗り越えていこう
	8月2日	J:COM	つながるNews 北大阪・京都・北河内 京都学生祭典本祭
	9月29日	J:COM	つながるNews 子ども食堂
	10月6日	KBS京都	きらさん！京都学生祭典本祭
	10月10日	NHK	ニュース630京いちにち 京都学生祭典が無観客で開催
10月11日	NHK	ニュース630京いちにち 学生のまち 47大学の学生参加	
その他	10月13日	J:COM (北河内エリア14日)	つながるNews 京都学生祭典本祭
	12月16日	ラジオ	FM87.0 RADIO MIX KYOTO SPLASH MIX KYOTO水曜「発見！京コレ！」
	2月1日	雑誌	京都府 議会だより No.40 大学生と議員の座談会
	3月号	雑誌	公募ガイド社 Vol.415 公募ガイド 第19回京都学生祭典メインビジュアル募集コンテスト
	8月10日	ラジオ	NPO京都コミュニティ放送 京の田舎暮らしだより 京都学生祭典 連携企画の紹介①
	8月10日	ラジオ	NPO京都コミュニティ放送 京の田舎暮らしだより 京都学生祭典 連携企画の紹介②
	9月下旬～	市政広報板	京都市 市政広報板 京都学生祭典本祭
	10月6日	ラジオ	FM87.0 RADIO MIX KYOTO SPLASH MIX KYOTO水曜 京都学生祭典本祭



○制作物一覧



オール京都での取り組み

京都学生祭典は産・学・公・地域の皆さまと連携し、オール京都のご支援のもと活動しています。第19回京都学生祭典においても、たくさんの方々とのご縁のおかげで充実した取り組みを展開することができました。

研修の開催

京都学生祭典の創設時より京都学生祭典企画検討委員長として携わっていただいている木村光博様より実行委員向けに研修をしていただきました。京都学生祭典の歴史を振り返り、私たちが知らない過去のエピソードをお話してくださいました。また、ご支援いただいている協賛企業様とのインタビュー動画を作成したり、Zoomでオンラインパートナー交流会を行うことで、社会人の方々の生活や働き方を学ぶことができました。

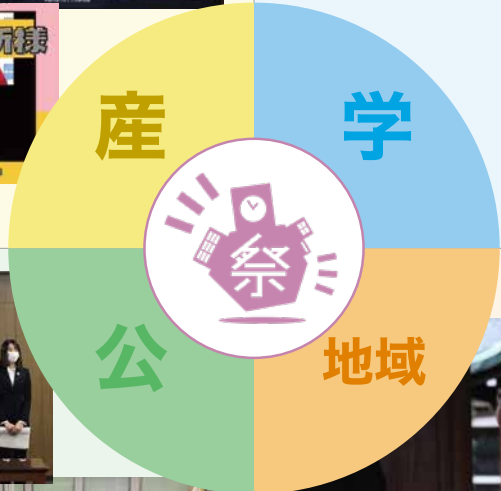


コロナ対策による専門家の助言

ウイルス学や公衆衛生学の専門家にご意見を頂戴し、実行委員ならびに出演団体の感染防止対策に最大限取り組みました。

広報面での協力

多数の実行委員が大学コンソーシアム京都に加盟する大学の学生であり、多くの大学が学内での京都学生祭典の広報活動に協力してくださっています。チラシやポスターなどの配架だけでなく、学内サイトの広報にもご協力いただきました。



様々な広報

京都市市政広報板へのポスターの掲示、関係施設へのチラシ送付など、広報物にもご協力いただいております。

新型コロナウイルス感染症防止対策

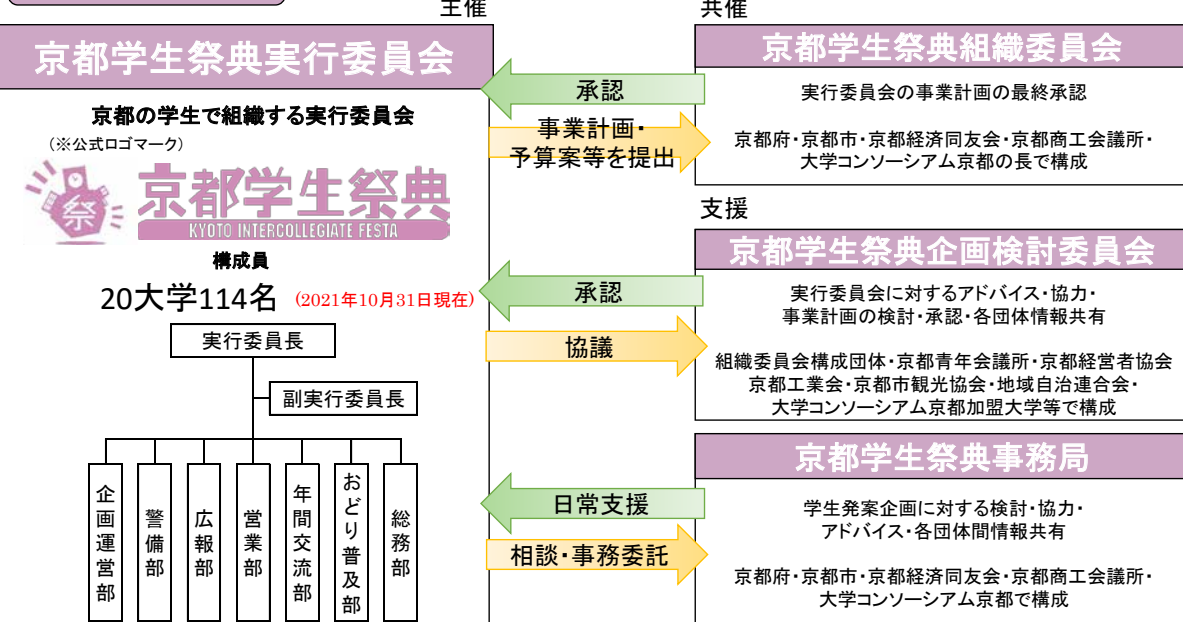
学生に向けた新型コロナウイルス防止対策の呼びかけを京都学生広報部、京都さくらよさこい実行委員会と一緒にを行いました。また、飲食時の「きょうとマナー」を普及するための啓発動画を作成しました。

地域の活性化

今年は京北地域と連携して、「京炎 そでふれ！」と京北地域で伝承されている「丹波音頭」を京北地域各地で披露し撮影しました。また、今後も地域のお祭りや、子ども食堂へのボランティア参加など積極的に地域との交流を深めていきます。



運営体制



[各部署の役割]

- 企画運営部：京都学生祭典本祭を彩る企画の立案・運営を行う部署。
- 警備部：京都学生祭典本祭やイベントで誘導・警備を行い、来場者・出演者・実行委員の安全を守る部署。
- 広報部：京都学生祭典をより多くの方に広めるため、チラシ作成やSNS投稿などの広報活動を行う部署。
- 営業部：京都学生祭典を支えてくださる企業様や個人サポーターの方へ協賛を募り、連携を取る部署。
- 年間交流部：地域の方々や留学生との交流を通じて京都学生祭典を広める部署。
- おどり普及部：京炎 そでふれ！を通して京都学生祭典を盛り上げる部署。
- 総務部：備品の管理や研修会の実施など実行委員の活動をより良いものにする部署。

[大学コンソーシアム京都加盟大学一覧]

国立大学	私立大学・短期大学		
京都大学	池坊短期大学	京都西山短期大学	佛教大学
京都教育大学	大谷大学	京都先端科学大学	平安女学院大学
京都工芸繊維大学	京都医療科学大学	京都橘大学	平安女学院大学短期大学部
	京都外国語大学	京都ノートルダム女子大学	明治国際医療大学
	京都外国語短期大学	京都美術工芸大学	立命館大学
	京都華頂大学	京都文教大学	龍谷大学
	華頂短期大学	京都文教短期大学	龍谷大学短期大学部
京都市立芸術大学	京都看護大学	京都薬科大学	大阪医科大学
京都府立大学	京都経済短期大学	嵯峨美術大学	京都情報大学院大学
京都府立医科大学	京都芸術大学	嵯峨美術短期大学	放送大学 京都学習センター
福知山公立大学	京都光華女子大学	種智院大学	
	京都光華女子大学短期大学部	成安造形大学	
	京都産業大学	同志社大学	
	京都女子大学	同志社女子大学	
	京都精華大学	花園大学	

実行委員名簿

実行委員長	副実行委員長
越野 泰介	田中 惟心
	谷本 若菜
	速田 朱里

企画運営部		
●堤 梨花	片山 鈴穂	松永 太輝
東 華子	兼松 美友	松本 有奈
伊藤 涼	栗川 真唯	森本 紀里佳
池田 万裕子	北川 沙季	村上 瑠南
池田 幸之介	小林 知華	中尾 まり
泉 奈樹	小出 望葵	鍋島 三奈帆
井上 優菜	笹尾 嵩典	宮下 桃佳
牛見 伊織	篠宮 裕司	俣野 千恵子
大住 翔平	篠原 太郎	山下 結衣
奥田 晶子	高田 周	山下 舞
岡本 直輝	舘 詩歩奈	和田 桃佳
小野川 佳恩	豊永 菜月	
梶川 桃香	新浜 響子	
亀田 実来	西岡 瞳	

警備部
●高木 花帆
青山 光一郎
伊川 琢海
濱名 かのん
三吉 大夢
山崎 啓介

広報部	
●大森 友梨子	福田 康騎
秋山 蒼	山崎 涼平
大藪 碧	山上 佐知
加藤 乃華	若松 果歩
岸 大賀	和田 遊心
近田 優輝	
九城 乃永	
白山 龍太郎	
杉本 晴香	
鈴木 健太	
西田 栞	
長田 葉奈	
中西 佐綺	
能勢 菜月	

営業部	年間交流部	おどり普及部
●篠原 日菜子	●酒井 悠里	●森川 駿
生田 花	榎本 万理	岡井 遥楓
遠藤 彩音	柏原 千夏	奥村 麻弥子
小嶋 あかり	北川 あいり	金城 はな
杉山 優太	鈴木 成実	鬼頭 仁菜
手塚 枝里	辻本 美紀	木村 明莉
中山 暁人	砥山 陽旭	多賀 幸菜
都築 佳依	伏木 亜実	武士 寧々
山崎 ちひろ	廣嶋 初音	中原 愛望
	山本 望愛	西井 梨菜
	室井 萌花	山本 翔矢
	松延 瑠	

総務部
●松田 優香
浦辻 颯太
木村 心香
島村 純
庄田 梨夏
鈴木 麻文
中家 美空
長原 由伊
葉山 凱
藤田 瑞
本田 彩亜紗
八阪 優樹
山本 祐也



●…部長

合計 114名

所属大学一覧

京都大学	4人	京都華頂大学	4人	京都美術工芸大学	3人	平安女子大学	6人
京都工芸繊維大学	4人	京都光華女子大学	5人	京都文教大学	3人	立命館大学	9人
京都府立大学	1人	京都産業大学	22人	摂南大学	1人		
福知山公立大学	2人	京都女子大学	20人	同志社大学	5人		
京都医療科学大学	1人	京都先端科学大学	9人	同志社女子大学	7人		
京都外国語大学	1人	京都ノートルダム女子大学	3人	佛教学	4人		

実行委員インタビュー

Q1 第19回京都学生祭典で頑張ったこと、苦勞したこと

Q2 第20回京都学生祭典に向けて



京都文教大学 1回生 豊永菜月

A1 京都学生祭典の初参加は企画立案から出演団体の手配、動画作りなど初めての作業ばかりでとても新鮮でした。今年は去年に続きコロナ禍での祭典開催となり、企画を予定通りに進めることが出来ずに苦勞しました。団体様にお声掛けする時もコロナで活動休止中だったり、度重なる緊急事態宣言で出演できるか危なくなったりと企画自体が無くなる可能性もあり不安を覚えましたが、団体様のご協力や部員のみんで対応し、結果的に素晴らしいものを作ることが出来ました。終わった後の達成感はとても大きく、京都学生祭典に関わることが出来て本当に良かったと感じました。

A2 第19回はコロナという非常事態の中、オンラインと対面で自分達が出来た最高のものを作ることが出来ました。反省点はいくつかありますが不安定な情勢の中、部員と協力して臨機応変に対応出来たことは良かった点だと思います。また、今年は先輩方が指揮を取り、その後をしっかりとついでいく形でしたが来年は周りの状況を見ながら主体的に行動を起こしていかなければならないと考えています。そして、第20回京都学生祭典の実施形態がどうであっても祭典に関わる全員が楽しめるようなものを作りたいと考えています。



京都先端科学大学 1回生 伊川琢海

A1 第19回の京都学生祭典ではコロナ禍であったため対面での活動が全く行うことができなかったため他の部署でも同じ部署の人でも本祭の日に初めて顔を合わせたという人もいました。実行委員の中で話したことがない人が多く、知らない人と話せるようになることを頑張りました。本祭当日は警備部として会場の警備を行いました。今年は無観客で行う予定のところ思いがけないほどの多くの人が会場付近に集まってしまい観客の規制をしたり警戒をすることが大変でしたが、終わって達成感がありとても楽しかったです。

A2 第19回は無観客で行う予定でしたが、多くの観客の方が会場に押しかけてしまったので反省も多かったです。しかし、特に大きなトラブルも発生することなく無事終えることができたのも一緒に警備をしてくれた業者の方のおかげです。今回一緒に時間を共有してもらって研修や当日の警備を通して多くのことを学ぶことができました。今回学んだことを活かして来年の京都学生祭典の警備がより良いものに行うようにし、京都学生祭典の成功を支えたいです。



京都美術工芸大学 1回生 和田遊心

A1 京都学生祭典ではまだ大きな仕事を任せられたことはありません。しかし、祭典に入ってから様々なイベントに参加させてもらいました。参加していく中で多くの人と出会い、色々なことを教えてもらい学んできました。祭典の方々は本当に優しい人が多くて、祭典のことが大好きで、いつしか僕も祭典をかなり好きになりました。祭典の先輩方は本当にかっこよくて、憧れています。いつか僕も今の先輩のようなかっこいい先輩になりたいと思いました。

A2 20回に向けてがんばりたいことは部署間での壁を取り払い、困っている人がいたら助け、逆に困った時は助けてもらえるチームを作りたいと思っています。一つは大きなものを作るには必ず誰かが苦勞することになります。その時に側に誰かがいること、支えてくれる仲間がいることがどれだけ励みになるか計り知れません。時にはぶつかり合うこともあるかもしれませんが、でも、ぶつかり合えるくらい信頼関係を今から築き上げていきたいと思っています。



京都先端科学大学 1回生 中山暁人

A1 頑張ったことは仕事を覚えることです。私が先輩になった際に質問の受け答えができる人が部長のみにならないよう、全ての部門に興味を持って活動をしていました。苦勞したことは京都学生祭典の活動、学業、アルバイトの両立をするためのスケジュール管理です。どれか一つがとて忙しくなると必ずその他に支障が出てしまいます。今年は自分がどこまでできるかを知る機会となりました。

A2 やりたいことが2つあります。1つ目は新しい挑戦をすることです。少しでも力になりたい、さらに自分がどこまでできるのか知りたいという思いから、1つ上の回生の方々がいる中で実行委員として頑張っていきたいです。2つ目は居心地の良い環境づくりです。20年目の節目になりますが、体制は今までは違い1つ上の回生の方が少ないため、2年目にして部長になる人がいます。そのような人が活動しやすい雰囲気を作りたいです。



京都ノートルダム女子大学 1回生 榎本万理

A1 コロナ禍による緊急事態宣言が出たことの影響により地域のお祭りや催し物等が中止となり例年に比べ対面での活動が少なかったため、雰囲気や活動の流れを把握することが難しかったです。様々な方との交流を深め多くの事を学ぶこと・自分の意見を明確に発することを意識して頑張りました。

A2 第20回京都学生祭典では本祭に向けての準備はもちろんのこと、その他の活動においても他の部署や部員と協力し、年間交流部として地域や留学生など多くの方々に信頼して喜んでいただけるような活動を行えるよう、責任感を持ち自分の成すべきことを一生懸命に果たしたいと考えています。また、次年度は20回という節目の年でもありますので代々受け継がれていくような記念に残るものを皆様と一緒に作り上げていきたいと考えています。



京都女子大学 1回生 奥村麻弥子

A1 今年のおどり普及部は、1、2回生が本祭を一人も経験したことがなかったため、3回生の負担にならないようにどう動いたらいいのかを同回生同士で話し合い、早く仕事を覚えるために、様々な活動に参加するように努めました。そして、来年度はどのように活動したいかを見通して活動しました。また来年度は、2回生も3回生も祭典歴が変わらないため、自分がおどり普及部長になるかもしれないと意識していました。そのためには覚えることも多いのですが、何よりも考えた企画を成功させるための計画の立て方や、会議の仕方、仕事の振り方などを、先輩方の動きをよく見て考えていました。

A2 まずは第19回から学んだこと、反省点を生かして前年度よりレベルアップした状態で第20回を迎えられるようにしたいです。今までは先輩方の下で活動していましたが、第20回は自分たち主体で様々な企画を考えていきたいです。先輩方だけでなく、職員さんや、業者の方々の協力により京都学生祭典を支えられています。20年も京都学生祭典が続いたのはそんな方々がいたからだと思います。なので、皆さんに感謝が伝わるような第20回京都学生祭典を創り上げていきたいです。



立命館大学 1回生 島村純

A1 実行委員の仲間を増やすために、説明会の運営を担当していました。オンラインでの説明会が主だったので、どうすれば実行委員会の雰囲気を感じ取ってもらえるか悩みました。各部署の協力もいただき、多くの学生を仲間に入れて本祭当日を迎えることができました。自分の運営した説明会を通して入ってくれた実行委員が、本祭で活躍している姿を見て、自分の仕事がかっこよかったのだと嬉しく思いました。

A2 今年は一回生として全てが初めてのことであったので、いつも先輩方のワッペン係後の行動になってしまっていました。今年の経験を元に、来年はワッペン係の行動をとっていきたくです。これからの説明会の形態がどうなるかは分かりませんが、どんな状況になってもしっかりと各部署が伝えたいことを伝えられる説明会を作りたいです。また、総務部は何でもやる部署だとよく言われていますが、ここから一年間を通して、総務部としてできないことを見つけて、本祭の一つでも色を足すことができたらと思っています。

協賛企業一覧 (50音順)

スペシャルパートナー協賛

ローム株式会社

KYO-SENSEパートナー協賛

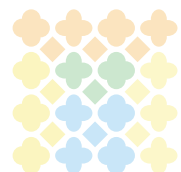
株式会社GSユアサ

オフィシャルパートナー協賛

株式会社キャリアパワー
株式会社長栄
株式会社堀場製作所
村田機械株式会社

パートナー協賛

京都信用金庫
京都青果合同株式会社
タキイ種苗株式会社
株式会社たけびし
奈良自動車学校
ニチコン株式会社
株式会社ワコール



サポーター協賛

株式会社アール工芸印刷社
株式会社あおぞら印刷
安藤不動産株式会社
アンビシャス税理士法人
株式会社イシダ
株式会社おいかぜ
オムロン株式会社
株式会社カワタキコーポレーション
株式会社京都駅観光デパート
株式会社京都銀行
京都中央信用金庫
京都電子工業株式会社
京都リサーチパーク株式会社
京のたからばこ
近建ビル管理株式会社

株式会社高島屋 京都店
CHANGE FOR THE BLUE in
京都実行委員会
株式会社テ・リード
株式会社ディレクターズ・ユニブ
福田金属箔粉工業株式会社
株式会社ブルーラグーン
株式会社堀場エステック
みやこ薬局株式会社
村山造酢株式会社
ヤマト運輸株式会社
リコージャパン株式会社 京都支社
旅館こうろ
株式会社ローバー都市建築事務所
株式会社ワタナベ美装

物品協賛

今西製菓株式会社
大正製菓株式会社
株式会社福寿園



依然として新型コロナウイルスが猛威を振るう中
第19回京都学生祭典が
ハイブリッドという形で開催できたのも
ひとえにご支援・ご協力賜りました皆様のおかげです。

京都四大祭りになることを夢見て
京都学生祭典は年々進化していくことを目指します。

これからも京都学生祭典をどうぞよろしく願いいたします。

第19回京都学生祭典実行委員会

本年も多くの皆さまからの多大なるご支援・ご協力のもと、
京都学生祭典を開催することができました。
ここに厚く御礼申し上げます。



スペシャルパートナー

KYO-SENSE パートナー



主 催：京都学生祭典実行委員会
〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル
キャンパスプラザ京都内

共 催：京都学生祭典組織委員会
(京都府/京都市/京都商工会議所/
一般社団法人京都経済同友会/
公益財団法人 大学コンソーシアム京都)

特別協力：平安神宮

後 援：京都府教育委員会/京都市教育委員会
公益社団法人 京都青年会議所
公益社団法人 京都市観光協会
公益社団法人京都市保育園連盟
公益社団法人 京都市私立幼稚園協会
公益財団法人京都和装産業振興財団
京都商店連盟/京都新聞/
J:COM 京都みやびじょん/KBS京都



京都学生祭典は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

各種SNSで「京都学生祭典」と検索!



公式HPにて
随時情報
更新中→

